



KSK あまねだより



発行 神奈川県障害者定期刊行物協会
 222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752
 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3階
 横浜市車椅子の会内

編集 あまね共同作業所
 239-0805 横須賀市舟倉 1-12-1
 TEL 046-835-0723 FAX 046-833-4062
 2020年2月3日 第431号

(頒価 20円)

新型コロナウイルスの拡大 -みんな困った!!-

今年の桜の開花は観測史上最速とのこと。あまねだよりを書いている今、テレビでは満開の桜の様子が報道されています。何かあっても美しい花を咲かせる桜の花は、満開から一気に散る様子も含めて日本人にとって、なくてはならない花なのだ—and改めて思います。東日本大震災があった9年前も変わらず美しく咲き誇っていたことが思い返されます。

そのような中で、新型コロナウイルス拡大防止策等によって、全国的に学校が臨時休校となり、普通級の方は勿論のこと、障害をもつ生徒さんは行く場がなく困っているということを耳にします。在宅勤務は限られている方しかできません。家族が働いていられる方は学童保育や放課後デイサービスに頼ることが多く、いつもギリギリの人数で運営している学童保育や放課後デイサービスは、人員の確保に悲鳴をあげています。

患者が出ている都市部では外出の自粛や、イベントの中止が相次いでいます。障害特性によって変化にとっても弱い仲間の方は、いつも出来ていることが出来ない、外出が出来ないということが何故なのかを納得するまでに非常に時間がかかり、ストレスを感じ場合によってはパニック等を起こして落ち着かなくなります。また、マスクの着用も苦手と感じる仲間の方や、室内に入る度にアルコール消毒も苦手という方も多く、この新型コロナウイルス騒動が早くに終息してくれることを望むばかりです。

あまねでは、生活介護の仲間の方が楽しみにしているグループ活動もクラブ活動も市内の公共施設が休館していることもあり全て変更や中止が余儀なくされています。旅行も仕方がないと思いつつ延期…。長期のなることが予想されますが、終息までみんなで罹患しないように、換気や手洗い等を徹底していきたいと思っています。

2020年3月23日の読売新聞の一面に大きく、「人材不足で介護保険が崩壊」と載っていました。介護保険以上に障害福祉サービス事業は人材の確保は厳しい状況です。抜本的な対策を講じないと大変

なことになると危機感を感じています。私たちの事業は人がいなければ成立しない事業です。仲間の方の支援に力を注ぐなかで、多くの課題や悩みを抱えながら日々実践しています。しかし、福祉業界は他の業種と比較して賃金も低く、労働環境も良くないと言われていきます。昔のように「やりがい」や「共感する中での楽しさ」だけでは人が集まってこないという現実と直面します。

この春、あまねを開所して37年目を迎えます。今までのことを思い返し、この紙面でこの間の思い出と振り返りができればと思っています。もしかしたら、そこから何かを掴むことができるかもしれません。

新型コロナウイルスに翻弄されている2020年の春、37年目を迎えるにあたって…
 (記 海原)



きょうされん第43回国会請願署名にご協力をお願いします。

今回のコロナウイルス感染拡大の影響で街頭署名などが実施できないため、署名が苦戦しています。ご協力をいただける方は是非あまね共同作業所までご連絡をお願いします。046-833-4035 山田・海原迄

資源回収ご協力ありがとうございます

2月実施分は
 13,972kgでした
 (奨励金は55,888円)
 次回の日程は別紙にてお知らせします。

問い合わせは9:00以降にお願いいたします。

★スケジュール

- 4月10日 資源回収 岩戸・池田
- 4月11日 資源回収 舟倉・若宮台
- 4月15日 管理者会議
- 4月17日 生活介護職員会議
- 4月29日 きょうされん支部総会
 ウィリング上大岡

(新型コロナウイルスのため変更になる可能性があります)

★バザーの予定

新型コロナウイルスの感染防止のため、六月末までのバザー等については、中止または延期の措置が取られています。バザー再開の目途がたちましたらお知らせします。

★ありがとうございます。

久里浜小学校PTA様・山口様・小原様
 額狩様・桑崎様・浅葉様・石橋様・高谷様
 いずみ作業所様・横溝様・鈴木様
 順不同

有効に活用させていただいています。

あまね共同作業所の歩み (1)

～草創期～

あまねだよりの一面に書いたように、少しずつ「あまね共同作業所のあゆみ」を思い返していきたいと思います。

あまね共同作業所の始まりは、福祉施設に勤務していた私が、支援の壁にあたって福祉の仕事を辞めたいという想いからスタートしました。そして何気なく入った本屋で手にした、ミネルバ書房の「ゆたか作業所」との出会いが、その後の私の方向を大きく変えました。その時は、ここまで長い間福祉の仕事に携わるとは思っていませんでした。

昭和50年代の障害者福祉は、障害当事者を中心にした支援の考え方が芽生え始めてはいたものの、主流とはなっていない状態でした。そのような中で、ふっと手にした本の内容は私にとって衝撃でした。障害者の「働くことの権利をきちんと保障していく」権利保障を根っこにおき、丁寧に障害のある仲間の方に向き合う実践の記録は、「辞めたい」という想いから「ゆたかの実践をこの目で見てみたい。可能であるならば横須賀でもこのような考え方を取り入れて仕事をしてみたい」と気持ちが変化していきました。

そして、居ても立っても居られない想いに駆られ、仕事先の夏休みを利用し名古屋のゆたか作業所に見学に向かいました。ここでの利用者の方と職員の方のやり取りは驚きでした。丁度ボーナスの話し合いの場面に遭遇したなかで、「仲間の会」代表の方が全員の意見を集約し、所長さんに堂々と「〇〇さんはボーナスで〇〇を購入したいのでいくら欲しい」と具体的な事柄をあげて訴え、一方所長さんは黒板(白板?)に分かりやすく仕事で得た収入を書き、平均するとこれしか支払うことができないと丁寧に説明をしていました。しばし、やり取りをした後に、所長さんから示されたボーナス金額で妥結しました。その後に「仲間の会」代表の方が、皆さんにこの間の経過をきちんと話して、皆納得をした様子で休憩に戻っていきました。

その頃私が勤めていた授産施設(今でいう就労継続B型事業所)での利用者と職員との関係とは全く異なり、改めて、「施設は誰のためのものであるのか」「支援のありかたはどうあるべきか」を学ぶきっかけになりました。この体験は私にとって、とても意義あるものだったと思います。この出会いがなければ、福祉業界から足を洗い新たな道を歩み、今の多くの出会いがなかったと思います。もしかしたら、結婚をして子育てをしていたかもしれません。(笑い)

「ゆたか作業所」ができてから昨年は50年目の節目の年であり、きょうされんの全国大会も小規模作業所発祥の地である名古屋で開催されました。大会参加のために久しぶりに名古屋を訪れ、はるか昔の出来事に思いを馳せました。

ゆたか作業所のような共同作業所を横須賀につくりたいという思いは持ったものの、どう作っていったらよいかわからずに苦慮していた時に、ボランティア活動でお世話になっていた育成会の村越会長から横須賀市の委託を受けて地域サービスを担当していた海風学園の植島さんを、紹介していただきました。

今は亡き植島さんは、まだ30代。苦勞されて名古屋の日本福祉大学を卒業し海風学園に就職されておりました。植島さんとお話してみると、大学卒業後、ゆたか作業所に事務局があった「きょうされん」の初代事務局として働いていたとのこと。植島さんとの出会いが「きょうされん」の事を知ることになり、その後準備会から「きょうされん」に加盟し今日に至るきっかけとなりました。

次回、準備会のことをお伝えしようと思います。

あまね共同作業所の歩みは、不定期にこの紙面を使いお伝えしていこうと思います。

(記 海原)



静岡県牧之原産やぶきた
深蒸し茶を販売しています

200g 千円

ご注文は作業所まで

046-836-2677

ふきん販売に
ご協力ください

布地8枚重ね 3枚組

660円

ご注文は作業所まで

046-836-2677